

沖縄気象台

採用区分

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木、農学、農業農村工学、林学

技術系区分の主な業務

01



01

気象庁の業務は、自然現象を常時監視するとともに、気象、地震、津波、火山活動に関する情報を発表している。それらの業務は幅広く、また異なる業務であってもそれぞれ少なからず関連があるため、採用区分にこだわらず様々な業務に携わることができる。

02



02

沖縄気象台では気象災害の防止や軽減を目的に、気象状況を24時間体制で監視し、観測データや数値予報をもとに日々の天気予報や防災気象情報を発表している。

03



03

予報業務はチームで行っており、多くの職員にも情報を共有し議論を深め、日々技術力を磨いている。

04

気象業務に必要な観測データを取得するため、気圧・気温・湿度・降水量・風向・風速・日照時間・視程などを観測している。

観測に使用する機器は、熱源や建物などの人工物による影響を避けるため、芝生を植えた「露場（ろじょう）」と呼ばれる場所や建物の屋上等に設置している。気象台では、観測システムおよびこれら屋外に設置された観測機器のメンテナンスや管理業務も担っている。

04



沖縄気象台の露場



05 災害発生時において、今後の防災気象情報の改善に資するよう、職員を【気象庁 機動調査班 (JMA-MOT)】として派遣し、現象の実態解明のための現地調査を行っている。写真は突風調査の様子で、左は被害の状況を確認、右は地元住民からの聞き取りを行っている。調査で得られた情報を収集・整理し、現象の特定と風速を推定する。調査結果は気象台ホームページで公表している。



06 沖縄県内各地には、観測データを収集するため様々な観測施設がある。写真は地震観測局である。多様な地震動(揺れの大小、周期の長短など)を観測するために、各種の地震計を設置している。

その他にも潮位観測施設などがあり、潮位をリアルタイムで観測し、潮位や津波の監視に利用している。

先輩職員に聞く仕事の魅力！

沖縄気象台 予報課
現業班員

たまなは つかさ
玉那覇 司

2020年 岡山地方気象台 採用
2021年 気象庁情報基盤部数値予報課
数値予報モデル基盤技術開発室
2024年 沖縄気象台 予報課 現職



私は小さい頃から自然に関することが好きで、大学では物理学を専攻していました。物理学の知識を生かし、自然現象を相手に幅広い業務を経験できる気象庁の仕事に魅力を感じ、志望しました。

現在は予報課に所属し、5人のチームで沖縄地方の天気予報や警報等の作成・発表を行っています。大雨や台風で仕事が忙しくなることもありますが、自分で発表した天気予報や警報等がテレビで流れているのを見ると、社会に与える影響の大きさを実感し、やりがいを感じます。また、過去の大雨事例を調査する業務にもチームで取り組んでおり、研修等で培った知見を活用しながら技術力を向上できる機会となっています。

学業等と公務員試験の両立は容易ではありません。私自身も試験対策に際し悩むことがありましたが、大学生協の支援を活用しつつ乗り越えることができました。進路選択で迷うことがあっても、気象庁には多様な業務分野があり、入庁後に適性や興味を見出すことも可能です。ぜひ気象庁で新しい挑戦をしてみてください。

■お問い合わせ先

沖縄気象台総務課人事係

〒900-8517 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎3号館 8階

TEL：098-917-7940

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/>

